



白浜温泉の成り立ちと これからのまちづくりについて

白浜町観光課観光商工係 滝本 斉

自己紹介



氏名 滝本 斉（たきもと ひとし）

所属 観光課観光商工係

各種イベントの企画運営や観光プロモーションに従事

年齢 43歳（昭和58年8月生）※公務員歴16年

出身 和歌山県白浜町

育ち 白浜町→東京都（7年間）→白浜町

前職 IT企業（3年間）

趣味 駅伝鑑賞

CONTENTS

0 1 白浜町のご紹介

0 2 白浜温泉の成り立ち

0 3 これからのまちづくりについて

CONTENTS

0 1 白浜町のご紹介

0 2 白浜温泉の成り立ち

0 3 これからのまちづくりについて

白浜町のご紹介



白浜町のご紹介



- ✓ 人口 19,199人（令和8年6月末現在）
- ✓ 面積 200.98km²（森林が約81%）
- ✓ 特産品 クエ、鮎、川添茶
地ビール、かげろう 等



白浜町のご紹介

関西有数の観光リゾート 南紀白浜



- ✓主産業は**観光業**
- ✓年間観光客数は**約300万人**
- ✓**ワイキキビーチ**と白良浜が**姉妹浜協定**を締結
- ✓県内唯一の**南紀白浜空港**があり、
羽田空港間を**1日3便**運航（**約60分**）

白浜町のご紹介

第3次産業（特に宿泊・飲食サービス業）に特化

		第1次産業	第2次産業	第3次産業	小計	宿泊・飲食サービス業
和歌山県	実額	72,235	1,248,705	2,408,606	3,729,546	90,172
	構成比	1.9%	33.3%	64.8%	100.0%	2.4%
和歌山市	実額	3,589	746,057	1,133,189	1,882,835	23,152
	構成比	0.2%	39.5%	60.3%	100.0%	1.2%
白浜町	実額	2,047	10,695	56,750	69,492	14,540
	構成比	2.9%	15.3%	81.8%	100.0%	20.8%

観光依存度
55.3%

（全国観光エリア平均 24.8%）

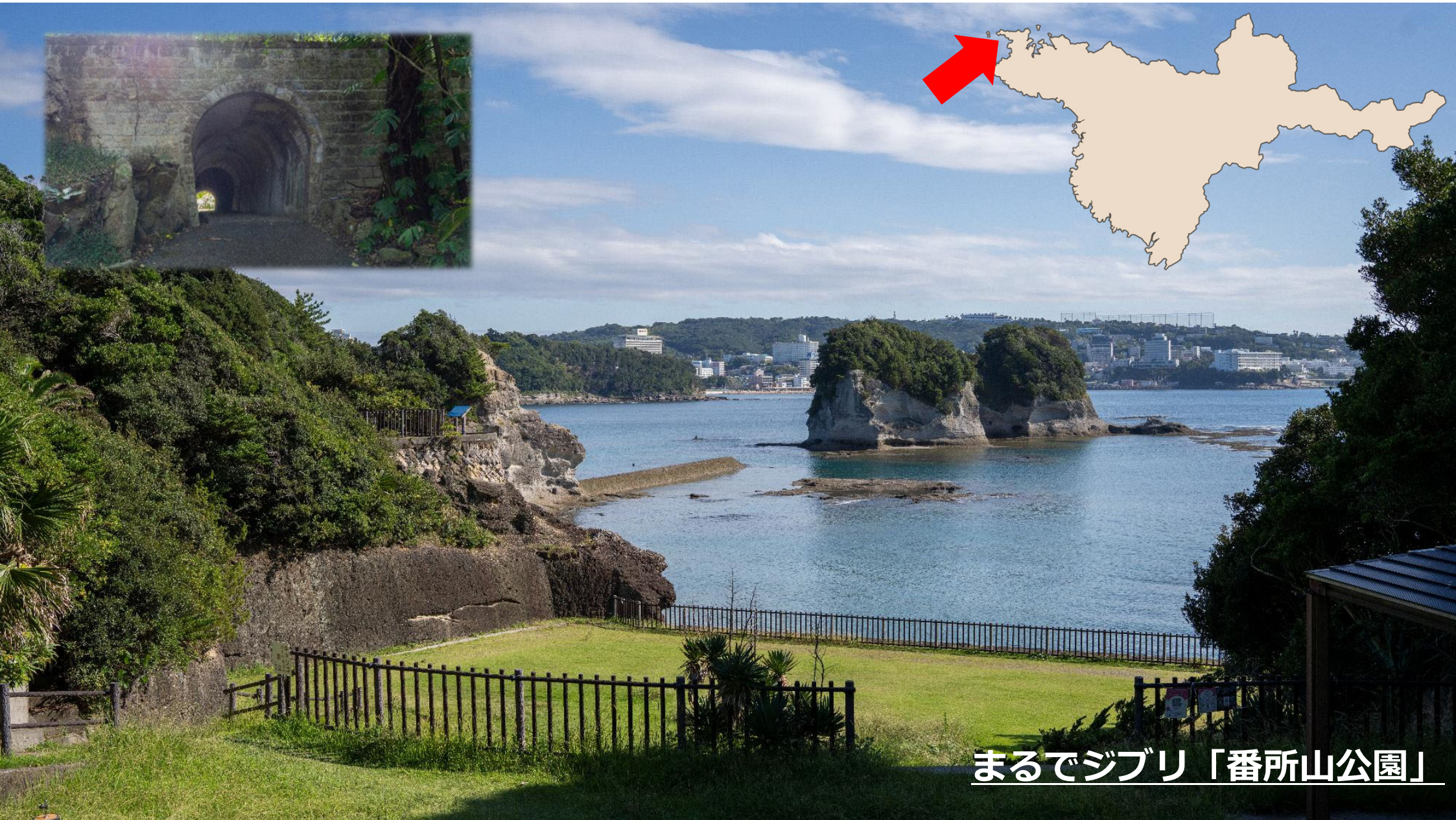
宿泊客10万人増加による
経済波及効果は38億円
雇用効果は462人増

白浜町は観光業（外部からの交流人口）によって稼ぐ産業構造

白浜町観光産業経済効果実態調査
和歌山県「令和元年和歌山県市町村民経済計算」より作成



白浜町のシンボル「円月島」



まるでジブリ「番所山公園」



真っ白な砂浜と青い海が広がる「白良浜」



日本三古湯の一つ南紀白浜温泉「崎の湯」



広い岩畳が広がる「千畳敷」

関西でも有数のウェディングフォトスポット



WEDDING GARDEN STUDIO

関西（大阪・京都・神戸）の任期前撮りロケーション31選より抜粋



熊野水軍の伝説が残る断崖絶壁「三段壁」



世界遺産 熊野古道・大辺路「富田坂」

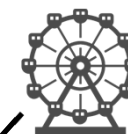
白浜町のご紹介

南紀白浜空港から10分圏内で主要な観光名所へ

円月島



南紀白浜空港



アドベンチャーワールド



白良浜



崎の湯

熊野古道



CONTENTS

0 1 白浜町のご紹介

0 2 白浜温泉の成り立ち

0 3 これからのまちづくりについて

白浜温泉の成り立ち（奈良時代～）

天皇や皇子たちの湯治場「牟婁の温湯」

西暦657年、有馬皇子（ありまのみこ）が湯治に訪れたこと、その後、斉明天皇、持統天皇、文武天皇の行幸があったことが「日本書紀」に記されている。

悲劇の皇子「有間皇子」と献湯祭

孝徳天皇の皇子である有間皇子は、皇位継承争いのなか謀反をそそのかされ、藤白坂（和歌山県御坊市）で処刑された。白浜町にとっては、白浜温泉の名を広めた恩人として町内に碑を設置し、毎年6月に献湯祭の神事が行われている。



白浜温泉の成り立ち（明治時代）

海辺の湯治場としての発展

江戸時代中期から湯治に訪れる客が増え、賑やかな海辺の湯治場として発展する。

元の湯、屋形湯、浜の湯、崎の湯、まぶ湯、あわ湯、仙気湯の7つの外湯を「湯崎七湯」と総称し、発展するが交通の便が悪く、陸の孤島であった。

紀州航路の開拓（外湯の繁栄）

大阪からの航路が開拓され、大型客船が来航するようになり、湯治客だけでなく温泉に長期滞在し、娯楽を目的とした観光客が来泉するようになる。白浜温泉は、病氣療養の湯治場というより、観光や保養を目的とした観光地として一躍有名になる。



明治末期の湯崎温泉

白浜温泉の成り立ち（大正時代～）

始まる温泉開発

大正8年、「湯崎七湯」とは別に、新たに白浜温泉街を設ける計画がスタート。
白浜町内でボーリング工法による温泉開発が進み、近代的な旅館の開業が相次ぐ。

外湯文化から内湯への転換

温泉開発の結果、内湯と娯楽設備を完備した近代的な大型旅館が開業。
内湯の便利さが際立ち、昭和2年までに湯崎のすべての宿が内湯を設けることとなる。
これまで白浜温泉を支えた「湯崎七湯」は収益元を失い、経営権を村に引渡すことで現在の内湯を中心とした白浜温泉街が形成される。



内湯を完備した温泉旅館

白浜温泉の成り立ち（昭和時代～）

団体旅行のメッカ

終戦後、旅行やレジャーブームとなる時代が訪れ、爆発的な観光ラッシュが始まる。
会社や工場の団体客の増加に伴い、旅館の増築や団体客専門の大型旅館が増えていき、昭和43年には過去最高の宿泊客232万人を記録した。

旅行形態の移行

オイルショック等の世界的な不況もあり、旅行形態は団体旅行から個人旅行へシフトしていく。
観光志向の多様化に伴い、白浜温泉も温泉だけではなく、白砂のビーチ（白良浜）や水族館、動物園、アスレチック等環境の変化に対応しつつ、その時代にあった観光に対応してきた。
今後も時代の変化に合った観光地の姿を模索することが求められている。



CONTENTS

0 1 白浜町のご紹介

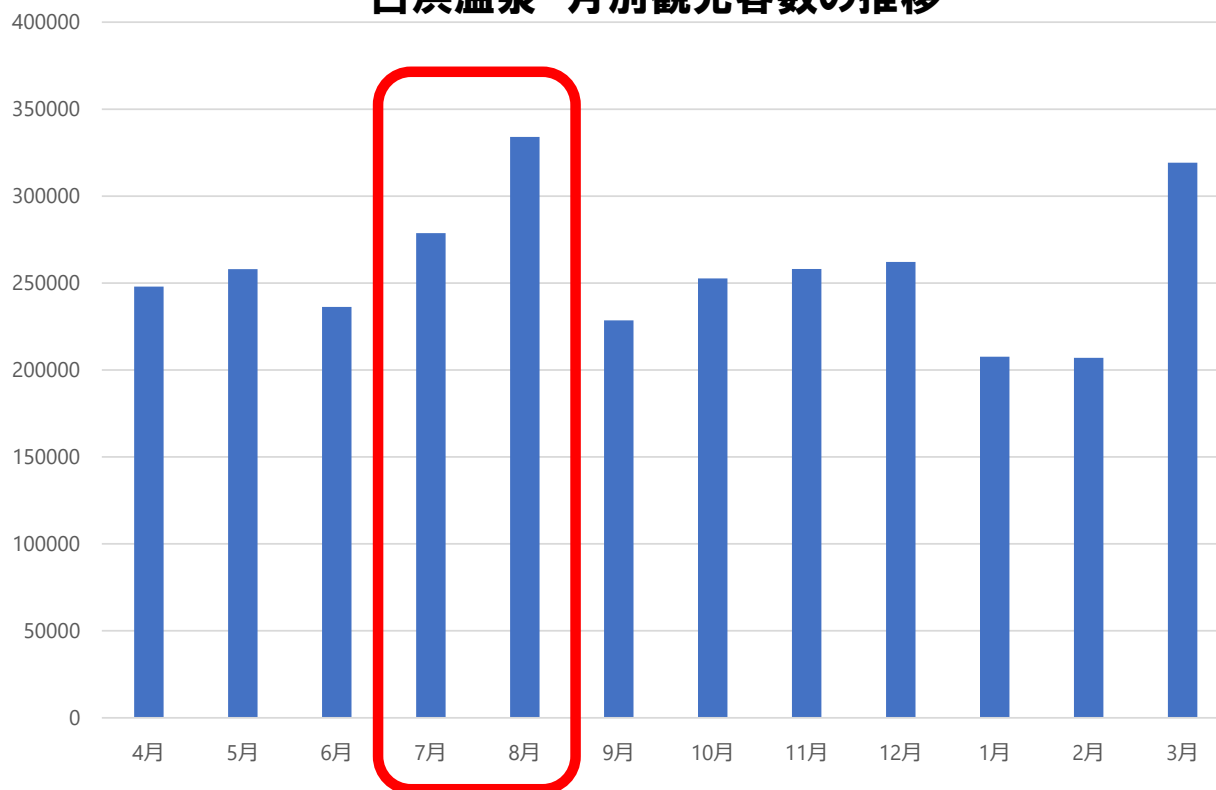
0 2 白浜温泉の成り立ち

0 3 これからのまちづくりについて

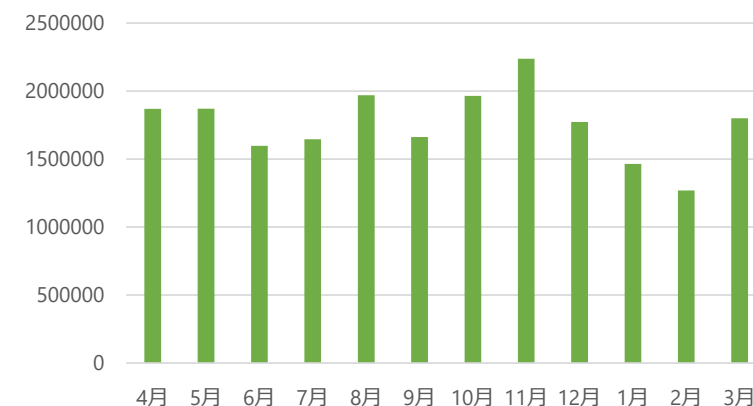
白浜温泉を取り巻く環境

夏期集中型の観光客の来訪構造

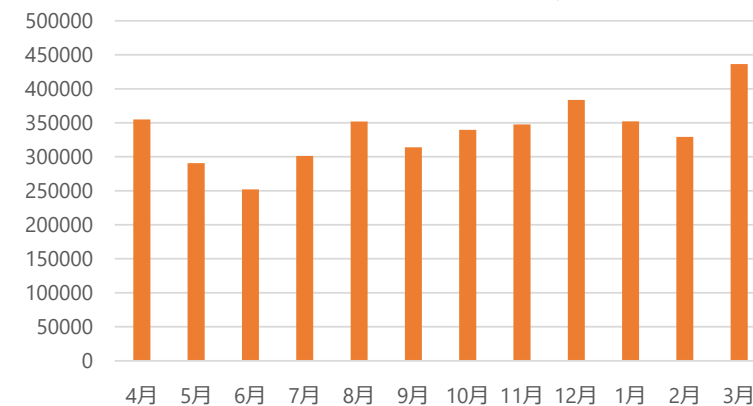
白浜温泉 月別観光客数の推移



草津温泉 月別観光客数の推移



箱根温泉 月別観光客数の推移

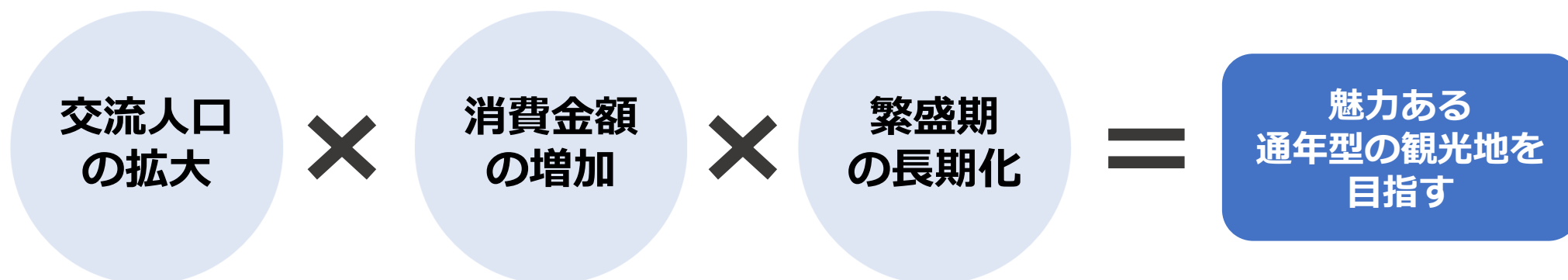


「白浜温泉街活性化構想推進計画」の策定（平成28年3月）

【計画の方向性】

白浜町では、町の経済活性化と観光の活性化との結びつきが強く、観光客の増加やこれによる観光消費額の増大は、町に経済的潤いをもたらすといえます。一方で、観光客は夏季に集中していることから、観光による効果を最大限に享受できているとはいえません。

そこで、**観光による効果の最大化**を実現するため、白浜温泉の観光のあり方を「**夏季集中型**」から「**魅力ある通年型**」へ転換することを目指します。



「白浜温泉街活性化構想推進計画」の策定（平成28年3月）

【4つの基本目標と具体的施策】

基本目標 1

戦略的観光の推進

- ①日本三古湯周遊プラン
- ★②白浜を拠点とした熊野古道などとの連携
- ★③白浜町内3温泉地の周遊
 - ④体験型メニューの拡充
 - ⑤首都圏・海外への情報発信強化とプロモーション
- ★⑥観光データの分析と活用によるマーケティング
- ★⑦白良浜（海水浴場）の施設整備
- ★⑧海洋レジャー活動の推進と海域利用ルールの方策
- ★⑨円月島周辺の施設整備
- ★⑩海岸線沿い遊歩道の改修（白良浜～権現崎～御船足湯）
- ★⑪海岸線沿い遊歩道の新設（白良浜～湯崎漁港）
- ★⑫観光案内看板の統一化
 - ⑬南紀白浜温泉ガイドブックの作成
 - ⑭商店街活性化事業の支援
 - ⑮都市公園、三段壁、千畳敷の整備・保全
 - ⑯「道の駅」の登録

基本目標 2

来訪者の増加と再訪率の向上

- ⑰冬季における温泉記念日の設定
- ⑱リメンバー白浜キャンペーン
- ★⑲MICE・スポーツ合宿の誘致
- ⑳各種イベントの開催・誘致と検証
- ㉑和歌山市からの無料送迎バス運行
- ㉒インバウンド受入体制づくり
- ㉓自然景観の保全と活用

基本目標 3

滞在時間の延長と消費単価の向上

- ㉔ブランド食材「クエ」の魅力発信
- ㉕白浜オリジナルグルメの開発
- ㉖女性をターゲットとしたカフェ、雑貨店等の充実
- ㉗まち歩きのおもしろづくり
- ★㉘温泉の歴史紹介と源泉の表示
- ㉙交通利便性を高めるおもしろづくり
- ㉚まちめぐりを促進する魅力ある新たな交通手段の導入
- ㉛円月島周辺施設セット入場券の発行

基本目標 4

事業者や住民の意識醸成

- ㉜白浜の魅力発見プロジェクト
- ㉝観光振興の核となる人材の育成
- ㉞白浜の活性化を持続的に担いえる組織の設立
- ㉟観光地における防災への意識向上

観光面での取り組み

OTAによる宿泊割引クーポンの発行※⑥観光データの分析と活用によるマーケティング

秋冬だけの南紀白浜お得旅。

宿泊対象期間：2025年9月1日(月)～12月26日(金)
1金種につき、おひとり2枚まで予約可能

宿泊割引クーポン	最大10,000円	2人以上、金額50,000円以上の場合
羽田空港や南紀白浜空港 宿泊+航空券割引クーポン <td>最大39,000円</td> <td>2人以上、金額130,000円以上の場合</td>	最大39,000円	2人以上、金額130,000円以上の場合
新幹線・特急の最寄り駅や白浜駅 宿泊+JR東南海沿線割引クーポン <td>最大24,000円</td> <td>2人以上、金額80,000円以上の場合</td>	最大24,000円	2人以上、金額80,000円以上の場合
【月曜日～金曜日】 宿泊割引クーポン <td>最大9,000円</td> <td>2人以上、金額30,000円以上の場合</td>	最大9,000円	2人以上、金額30,000円以上の場合

JRパック
初登場！

「月曜日～金曜日」なら
もっとおトク！



OTAで利用可能な2割～3割の宿泊クーポンを発行

- ✓ じゃらん、楽天トラベルを活用。町内ほぼ全ての宿泊施設で利用可能
- ✓ JAL-DPプランの活用で都心部からの観光客誘致
- ✓ コロナウイルス後の2023年から継続実施。
- ✓ 最近では、発行直後に完売。

利用者情報をデータ分析し、観光PRに活用

- ✓ 宿泊クーポン利用者データを随時取得
- ✓ データ分析することで、次年度以降の観光プロモーションに活用

白浜温泉街を中心とした町内周遊イベント



「白良浜ライトパレード」の開催

- ✓ 白良浜を光と音で彩るライトアッププロジェクト
- ✓ 民間有志が主導。行政に頼らないイベントづくり
- ✓ ハロウィンやマルシェ、サウナ等関連イベントを実施



「Japan Walls」の開催

- ✓ 町内の壁にプロのアーティストが絵を描くアートプロジェクト
- ✓ 開催期間中はアーティストが町内各所でライブペイントを実施
- ✓ 白浜での開催は5年目を迎え、アート作品は町内に40カ所

観光面での取り組み

白砂を活用したビーチスポーツの誘致※①MICE・スポーツ合宿の誘致



「南紀白浜トライアスロン大会」の開催

- ✓ 閑散期の5月中旬に開催
- ✓ 全国から約600人が参加
- ✓ 前日に受付を行い、町内周遊を促す

「ビーチアルティメット」競技の誘致

- ✓ 砂浜で行うフライングディスク競技
- ✓ 年3回程度、閑散期に開催
- ✓ 2019、2024に国際大会を開催。来場者約6,500人。

これからのまちづくりについて

「白浜町観光戦略」の策定（予定）

🔥 温泉を核とした活用可能性調査の実施と施策の検討

🔥 日本三古湯の歴史と外湯文化の再定義

🔥 特定のコンテンツ依存からの脱却



中長期的な観光の将来ビジョンとそれを実現するための取り組みを「白浜町観光戦略」としてまとめる

【様式6】【R8】事業名：ポストパンダ時代の観光戦略策定事業【和歌山県白浜町】



事業内容

本事業では、有識者検討会（元観光庁長官に委員就任内諮済み）を開催し、白浜町におけるポストパンダ時代の観光戦略の策定を行う。白浜温泉や白良浜、熊野古道を対象とした文献調査や観光関係データの分析を行うとともに、各種団体等へのヒアリングを実施し、現状と課題を把握する。また、国内外の観光地の事例調査、インバウンドや国内観光客のニーズを整理する。温泉については、核となる事業の検討など観光資源としての活用可能性を調査する。調査結果をもとに、検討会において、温泉地、ビーチリゾート、インバウンド、首都圏・広域戦略、富裕層観光、持続可能な観光地、DX、交通、人材等の観点から検討を行い、その上で、熊野巡礼や日本三古湯の歴史を軸に白浜独自の魅力を再定義するとともに、温泉・海・巡礼を複合的に活用するストーリーの構築、「熊野巡礼の温泉地」「世界水準のビーチリゾート」といったコンセプトやターゲットを定め、白浜の観光の将来ビジョンとそれを実現するための取り組みを「白浜町観光戦略」としてまとめる。

地域の課題、事業目的の背景

- ① 特定のコンテンツ（パンダ）への過度な依存からの脱却：大きな集客力を誇ったパンダが中国に返還され、パンダに頼らない新たな観光戦略が求められている。
- ② 海水浴・団体旅行の減少：海水浴ブームや団体旅行需要が減退するなか、白良浜のビーチリゾートとしての魅力を再構築する必要がある。
- ③ 歴史的な温泉資源の活用不足：白浜温泉は日本三古湯として古くから天皇や巡礼者に愛された歴史を持つが、ストーリーや外湯文化が十分に活かされていない。
- ④ 宿泊税の導入：令和9年度より宿泊税を導入する予定であり、宿泊税による財源をどういった用途に使うのかしっかりと検討していく必要がある。

現時点で把握している観光資源

南紀白浜温泉（「日本三古湯」の一つ）
白良浜（石英質の白砂が広がる全長約620mのビーチ）
円月島・千疊敷・三段壁洞窟（質的な特異性と景観美）
熊野古道大辺路（世界遺産）、熊野三所神社
アドベンチャーワールド、エネルギーランド、白浜水族館、南方熊楠記念館、とれとれ市場

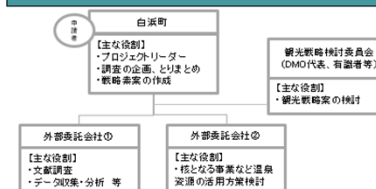
南紀白浜温泉



白良浜



事業実施体制図



本事業における達成目標

本事業ではポストパンダ時代の観光戦略の策定を行う。観光戦略に基づく取り組みを実行することで、国内外の観光客数や消費額等を増加させ、地域経済に大きく寄与するとともに、持続可能な観光地を実現する。（観光客数301万人（令和6年度）→360万人（令和11年度）等）

次年度以降の計画

- ・宿泊税の導入（宿泊税検討委員会（篠原文也委員長）にて具体策決定済み）
- ・本事業で策定した戦略に記載された取り組みの実行（温泉地、ビーチ、インバウンド、首都圏、富裕層、持続可能な観光地、DX、交通、人材等）
- ・登録DMOの更新（体制強化）

これからのまちづくりについて

「宿泊税」の導入（予定）

旅行者の満足度や利便性、快適性の向上等、住民生活と調和した持続可能な観光振興を図る施策に要する費用に充当する

【宿泊税の使途】

- ✓ 観光資源の魅力向上
- ✓ 情報発信の充実
- ✓ 誘客促進
- ✓ まちなみ景観整備
- ✓ その他データ収集や分析活用等

THE SANKEI SHIMBUN

トップ 速報 ランキング 政治 国際 社会 経済 スポーツ エンタメ **ライフ** オピニオン イベント

皇室 くらし 健康 観光 環境 文学 歴史 美術・芸術 将棋 囲碁 本 教育 メディア 科学

関西有数リゾート地、和歌山・白浜町で宿泊税導入条例案可決 200～1000円を課税

2026/6/16 17:36

✕ ポスト ✕ 反応

ライフ | くらし



美しい砂浜として知られる白良浜＝和歌山県白浜町

関西有数のリゾート地がある和歌山県白浜町の町議会は16日、「宿泊税」を導入する条例案を可決した。観光資源の保全や観光情報の発信強化などにあてる。県内での導入は初めて。来年3月の施行を目指す。

条例は、町内の宿泊施設に宿泊する場合、宿泊料金に応じて1人あたり200円～千円を課税。12歳未満や修学旅行生らは免除する。税収は年間6億5000

本日のまとめ

- 01 白浜町は日本三古湯でもある白浜温泉をはじめ、自然の資源に恵まれた関西を代表する観光地である**
- 02 白浜温泉は外湯から内湯中心に変化した温泉街であり、その時代に合った観光形態を形成してきた**
- 03 中長期的なビジョンを策定し、「温泉」を核とした新たな観光戦略を策定し、取り組んでいく**